

防災無線、何を言っているのか聞こえなかった…

そんな時には！ 電話で防災無線を聞ける、

防災行政無線テレホンサービス

があるじゃないか！

① 無線聞こえない…



② 電話しよう！



③ なるほど！



☎ 080-0800-8432 (無料)

メール配信サービスもあります！

防災情報等メール配信サービス

登録は・・・

✉ t-tokigawa@sg-m.jp へ空メールするだけ！



町民文芸 短歌

級友と米寿を祝う旅の宿
北に上れば 姥桜咲く

玉川 加藤 よし

コロナ禍にめげず桜は咲いて散る
ひとかげまばら 葉桜の土手

田黒 塩崎 順子

雨雲の あじさいの道傘が咲き
色とりどりの 登下校かな

田黒 土屋 進一

春の庭むらさきつつじながめれば
コロナを忘れ 朝のひととき

本郷 大島ツル子

笑う園児と見守る隊員の 眼差しと
支える右手 みなやさしくて

別所 朝倉 修子

コクサギの葉の異臭さえうれしかり
まだ嗅覚のあるとおもえば

西平 新井 暁苑

墓石に「あなたの笑顔が道しるべ」
酒と御散供と あざみを母と

西平 荒井 佳子

秋の夕多く雨ふりそのあとで
二本の大きじに出で見事

西平 伊得とし江

「今日は」言葉交わして走り出す
児童の背中のランドセル踊る

西平 小池喜代子

こんなにもおだやかな日の来るなんて
夫が倒れて 七年過ぎぬ

雲河原 池上 政子

歴史に立ち寄る

No. 10
問 生涯学習課 ☎ 65-2656

渋沢栄一とときがわ町

渋 沢栄一は埼玉県出身の三偉人の一人です。栄一は、現在の深谷市に生まれ、幕末にヨーロッパに渡り今の資本主義の仕組みを学び、明治・大正・昭和の初めにかけて活躍した人物です。また、現在NHKの大河ドラマ「青天を衝け」の主人公でもあり、新一万円札肖像画にも予定されています。栄一の妻である「千代」は、後に富岡製糸場の初代工場長になる尾高惇忠の妹ですが、この惇忠と共に行動したのが大野村（ときがわ町大字大野）出身の「柴崎角次郎」という人物です。角次郎はのち渋沢家の一族となり、渋沢栄一の秘書となります。なお、角次郎が後に日銀総裁そして大蔵大臣になった「渋沢敬三」を抱いた写真が渋沢史料館に所蔵されています。

た。また、角次郎は渋沢栄一が外遊の時は、大番頭として留守宅を任されました。明治6年（1873）には渋沢栄一の指示で、飯能戦争で自刃した「渋沢平九郎」（惇忠及び千代の弟）の遺骸を収容し東京の谷中にある渋沢家の墓地に改葬しました。この改葬したときの遺骸の受け取りの書簡が、田中村（ときがわ町大字田中）の市川重平宛に残されています。明治7年（1874）には、平九郎の遺骸を埋葬した全洞院（越生町）に墓石を建てるなど、渋沢家のために力を尽くしました。

文 / 岩田泰治さん（大野地内）

柴崎角次郎が尾高惇忠や渋沢栄一との関係がはっきりするのは、幕末に起きた飯能戦争の時からです。振武軍を結成した尾高惇忠が追討軍に敗れ、敗走したときに惇忠たちを大野村に潜ませ、その後、伊香保温泉、そして実家のある深谷まで道案内をしながら、行動を共にしました。敗戦の後、角次郎は大野村に帰らず、渋沢家を頼って生活をし、渋沢家の一族として迎え入れられ、米をつき、薪を割るなど生活全般の仕事を細やかに勤めまし



渋沢敬三を抱く芝崎確次郎（柴崎角次郎）写真（渋沢史料館所蔵）

8月号掲載の短歌作品を募集します。はがきまたは電子メールに、作品1点(未発表)をかい書で記入し、6月30日までに投稿してください(締切日の消印有効)。また、漢字には全てルビを明記してください。電子メールでの投稿は、件名を「町民文芸」としてください(kouhou@town.tokigawa.lg.jpまで)。対象は町内在住の方のみです。ペンネームや雅号を使用の方は、本名も必ず記入してください。